

第3回 藤沢市立辻堂小学校 学校運営協議会 会議録

～ 地域とともにある学校づくりとコミュニティ・スクール推進に向けて ～

1. 開催概要

会議名	第3回 藤沢市立辻堂小学校 学校運営協議会
日時	第1部：公開協議（全体会・授業構想提案） 第2部：非公開協議（児童生徒指導に関する協議）
場所	藤沢市立辻堂小学校 指導室
出席者	植木会長、納富校長（副会長）、CS コーディネーター（重田委員）、協議会委員（和泉委員、川延委員、松尾委員、兼田委員、妹尾委員、増淵委員、麦島委員）、各学年校内研究担当教諭（1～6年）、中村教諭
議題	1. 校舎建て替え工事に伴う体育学習環境と避難経路の課題 2. 懇談会・長期休業中における児童の居場所づくり 3. 地域を舞台にした生活科・総合的な学習の時間の授業構想（各学年プレゼン）

2. 開会・会長挨拶

植木会長より開会の挨拶が述べられた。辻堂小学校および庄用中学校の卒業アルバムや当時の思い出（1クラス55名規模の児童数、海水プールの活用等のエピソード）を振り返りつつ、校舎新築という大きな転換期を迎える中で、本日の協議および各学年からの授業構想提案に対する活発な意見交換への期待が表明された。

3. 報告・協議事項

【議題 1】校舎建て替え工事に伴う体育学習環境と安全課題

1. 工事スケジュールと現状:

7 月末に入札が完了し、10 月より校庭に工事車両が進入して本格着工する予定（全体の工期予定は 5 年間）。これにより運動場の大半が使用不能となる。

2. 体育・学習場所の代替措置:

- ・ 3～6 年生：浜見小学校の校庭を借用して実施。移動時の安全確保のため教員に加えて 1 名の引率体制を組み、教育委員会へ人的支援を要請中。
- ・ 1～2 年生：辻堂海浜公園の人工芝グラウンドおよび校内「ドリームスペース」（クッション材設置）を活用。
- ・ 水泳学習：辻堂海浜公園プールを活用（保護者ボランティアの協力を仰ぐ）。

3. 救急対応・避難経路の整理:

運動場が使用不能となるため、救急搬送時の車両動線整理や、火災・地震等の災害時における避難経路（商店街側を通過して緑の広場へ避難するルート等）について、学校施設課および地域関係者と連携して再構築を進める。

【議題 2】児童の居場所づくりに関する課題

1. 授業参観・懇談会中の児童の居場所:

保護者の懇談会参加率向上のため、懇談会実施中の時間帯（40 分～1 時間程度）、図書室やホールを解放し、CS 地域ボランティア等の見守りによる一時的な居場所作りを検討する。

2. 長期休業中（夏休み等）の学びの場:

地域有志（重田氏等）による「この町の自習室」や各種イベント等の自律的取り組みが報告され、高い評価が共有された。新校舎（体育館下の会議室・多目的室等）完成後の場所提供や地域連携の可能性について継続検討する。

【議題3】地域を舞台にした生活科・総合的な学習の時間の授業構想（各学年提案）

各学年の担当教諭より、地域資源を活用した年間授業プランがプレゼンテーションされ、必要とされる地域協力・専門家連携について協議が行われた。

学年	学習テーマ・単元名	地域連携・協力要請内容
1年生	秋と仲良し どんぐり祭り	・長久保公園への移動時の安全見守りボランティア ・専門家による自然体験指導およびおもちゃ作り（ハサミ・刃物使用）のサポート
2年生	もっと仲良し まち探検 （愛のあふれる2年生）	・地域店舗・施設へのインタビューを通じた地域愛の育成 ・探検時の移動見守りおよび児童の疑問を深める対話・問いかけへの協力
3年生	農家のお仕事 （生産と販売）	・地元農家（関根果樹園等）や市民センターと連携した地域産業学習 ・現地見学時の安全誘導・見守りサポート
4年生	自然災害に備えるまちづくり （科学の目で守る辻堂の防災）	・ハザードマップ活用、自助・共助・公助の連携理解 ・地質・防災専門家や科学的データと協働した防災提案の作成・アドバイス
5年生	辻堂の未来 （国語・総合の横断学習）	・社会問題（防災等）を辻堂地域に落とし込んだ調査学習 ・専門家や地域関係者によるファクトチェックおよびパートナーとしての助言
6年生	歴史学習 （戦争と人々の暮らし・辻堂小開校当時）	・開校当時や戦争当時の暮らしを知る地域高齢者・卒業生等からの聞き取り・講話学習への協力

4. 協議・各委員からの意見交換

- **地域参画と「三方良し」の仕組み作り:** 教員以外の地域大人が授業に関わる「第一歩」を高く評価。単なる手伝いにとどまらず、子ども・学校・地域の三者が共に学び成長する「三方良し」の持続可能な仕組み構築が提案された。

- **地域資源・人材バンクの積極活用:** 市民センターの防災人材バンク活用や、通学路沿いの各種事業者（バイク店、パン店、土木事業者等）・近隣農家への協力アプローチについて具体的な助言がなされた。
- **学年間のテーマ重複と人材確保:** 4年生と5年生の防災テーマ重複に対する懸念に対し、辻堂地区は防災協議会等の地域活動が大変活発であり、多角的な視点から十分な supply/人的リソースを確保可能であることが確認された。
- **児童の発信力・対話力の育成:** 地域住民が児童に対して「それはどういうこと？」と深掘りする対話を行うことで、児童のコミュニケーション能力および思考・言語化能力を効果的に伸ばせるという認識で一致した。

5. 今後の進め方・連絡事項

1. コーディネート体制の整備:

CS コーディネーター（重田氏等）を中心に、学校側のニーズと地域人材・ボランティア情報を整理・集約し、円滑なマッチングを図る。

2. ボランティア運用・予算ルールの整理:

保護者ボランティアと地域ボランティアの役割分担を明確化し、必要に応じて謝金や予算運用のルール作りを整理する。

3. 次回予定:

第1部（公開協議）終了後、10分間の休憩を経て第2部（非公開：給食・児童生徒指導に関する協議）へ移行した。次回第4回学校運営協議会の日程については調整の上決定する。

以上